資料6

収量性に優れ、高品質で良食味の水稲有望系統「山形142号」の特性

令和７年２月１０日
農業総合研究センター
水 田 農 業 研 究 所

1. 来歴育成経過

「山形142号」は、山形県農業総合研究センター水田農業試験場（現山形県農業総合研究センター水田農業研究所）において、平成24年に「山形112号，雪若丸」を母、「山形122号」を父として交配し、その後代から選抜・育成した。平成30年に「山形142号」の系統名を付し、令和元年から奨励品種決定調査により地域適応性について検討してきた。令和7年1月に奨励品種改廃協議会において有望と認められ、山形県水稲認定品種に採用された。令和6年はF_{14}世代である。

2. 特性の概要

育成地では「はえぬき」と比較して、出穂期は並、成熟期は1日早い**“中生の晩”**に属する。

稈長は「はえぬき」より5cm程度長い**“中稈”**で、耐倒伏性は“中”である。

いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia,Pii*”と推定され、圃場抵抗性は、葉いもちが**“やや強”**で、穂いもちは**“強”**である。障害型耐冷性は“強”、穂発芽性は“中”、高温登熟耐性は**“やや強”**である。

玄米**千粒重**は「はえぬき」より2g 程度重く、「はえぬき」より10％以上多収で**収量性**は優る。玄米の外観品質は「はえぬき」を上回る**高品質**である。

玄米粗タンパク質含有率は「はえぬき」よりやや低く、精米アミロース含有率は「はえぬき」よりやや高く、味度値は「はえぬき」を上回る。

食味は炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」並～優る**良食味**であり、精玄米重が増加しても安定している。

写真1　登熟期の稲姿

写真2　稲株の比較

（左：山形 142 号　中央：はえぬき　右：出羽きらり）

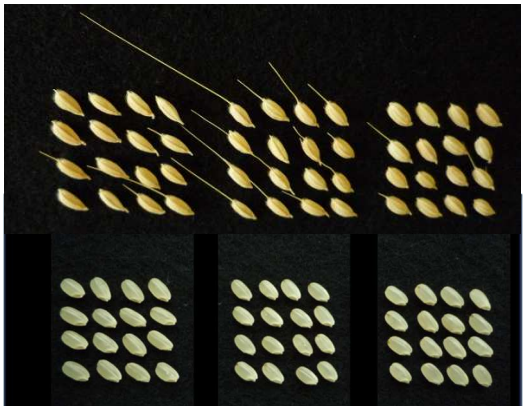

写真3　籾・玄米の比較

（左：山形 142 号　中央：はえぬき　右：出羽きらり）

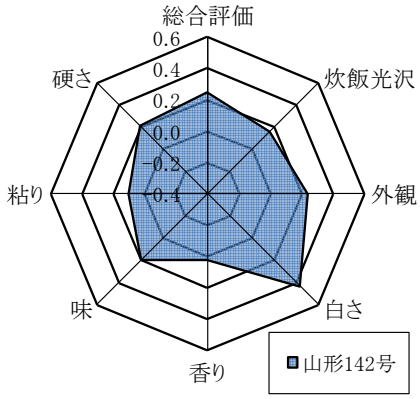

図1　食味特性

育成地生産力検定試験　平成 28～令和 6 年
基準（0.0）育成地産「はえぬき」

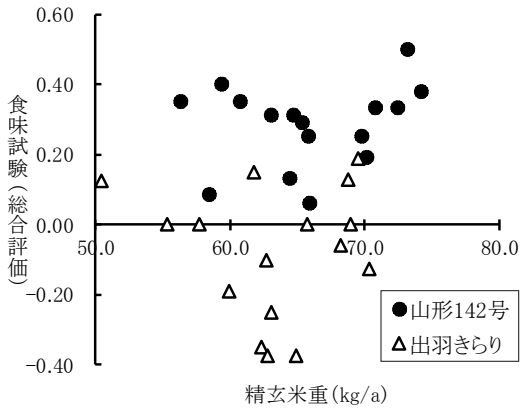

図２　精玄米重と食味の関係

所内試験及び奨決試験　平成 28～令和 6 年
基準（0.0）育成地産「はえぬき」